

社会科学習指導案

第4学年1組 令和2年11月25日(水) 第6校時(4年1組教室) 指導者: 東穂 愛子

研究主題 **考え、かかわり、学びをつなぐ 力を持った 児童の育成** ～思考を広げ、深める「かかわり」のしかけの工夫(2年次)～

考え、かかわり学びをつなぐ授業

- (1) かかわりの目的や、思考の視点の明確化
- (2) 学びをつなぎ、高める指導の工夫(発問、指示、問い返し、学習モデルや条件の提示、スキル)
- (3) 思考を深め、可視化する、効果的な思考ツールやICTの活用
- (4) 多様なかかわりをつくる学習形態の工夫(個別・ペア・グループ・全)

＜思考を広げ、深める「かかわり」のしかけの工夫について＞

しかけ I

◎かかわりの対象を意図的に選択する。

自己内対話、先哲・資料との対話、他者との対話

しかけ II

◎かかわりの目的を明確化する。

情報収集、比較、表現、説明、協議、課題解決、共創、納得解・最適解、合意形成、新視点

しかけ III

◎かかわりのためのツールを工夫する。

場の設定、資料提示の工夫、板書・ワークシートの工夫、ICT活用、対話やモデルの提示など

1. 単元名 命とくらしをささえる水

2. 単元の目標

- 知識・技能に関する目標・・・飲料水を供給する事業は、安全で安定的に供給できるように進められていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解するとともに、見学・調査したり、資料を調べたりして、まとめる技術を身につける。
- 思考力・判断力・表現力・・・地域に届けられる供給のしくみや経路、県内外の人々の協力に着目して、飲料水の供給のための事業の様子をとらえ、それらの果たす役割を考え、文章で記述したり、白地図や図表などにまとめたことを話し合ったりする表現力を育てる。
- 主体的に学習に取り組む態度に関する目標・・・人々の健康や生活をささえる事業について、学習問題の解決に向けて意欲的に追究するとともに、これまでの学習を振り返り、学習したことを確かめることができるようにする。また、水を大切な資源としてとらえ、節水などに向けて自分たちが協力できることなどを考える。

3. 単元について

＜教材観＞

本単元は、学習指導要領社会科第3学年及び第4学年の内容(3)を受けて設定したものである。単元では、飲料水を供給する事業は、安全で安定的に供給できるように進められていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解できるようにする。本単元の内容は、飲料水を供給

する事業は人々が安心して、飲料水を使うことができるように様々な面で安全確保に努めていること、必要な量をいつでも使えるよう確保に努めていること、関係機関が相互に連携したり、協力したりして安定的に供給できるように進められていることをもとに、事業について理解することが重要である。また、「水不足」といった仮定の問題を様々な立場に立って解決策を考える。そして、この仮定した問題は地球温暖化や緑の減少といった現代の社会が直面している問題が関係していることに気付かせ、自身も社会の中の一員として自分たちにできることを考え、生活にいかす態度を育てたい。

<児童観>

本学級の児童は、これまでに「ごみのしよりと活用」の学習で、ごみの分別と有料化について重点的に学習し、ごみの減量化を目指していくことがよりよい未来につながることを学習してきた。ごみの処理について「自分の家ではこんなことをしている。」など自分の生活から考えるとといったことができる児童が多く、友達やグループワークでも自分の考えを相手に伝えようとする姿が見受けられた。しかし、生活の中で水道水を大量に使っているイメージをもっている児童は少なく、水道の蛇口をひねれば当たり前前に水が飲めると思っている。学校生活の中でも、掃除時間に使用する水の量が多量であったり、手を洗う時に水をだしっぱなしにするなどの場面が見受けられる。自分たちで考えることができるからこそ、資源には限りがあることを理解し、大切に資源を使おうとする態度を育てたい。

<指導観>

本小単元では、児童は、毎日使う水道の蛇口から、地下の水道管、浄水場、河川の流れ、ダム、水源と視野を広げながら学習を進めていく。浄水場の調べ学習や、学校内の施設を実際に見る体験を通して、児童が学習内容を身近に感じることができるようにしていく。浄水場やダム、河川の流れを実際に見学することなくイメージすることは容易ではないが、動画や図など資料提示の方法を工夫しながら具体的にとらえられるようにしていきたい。本単元の導入では、実際に学校施設の蛇口数を調べ、自分たちの水の使用量について考え、自分たちの暮らしには多くの水が使われていることを実感させる。

本時では、限られた資源を大切に使う工夫を考える際には、個人で考えたあと、グループで意見交換することにより、まとめたことを自分の言葉で表現し、お互いに伝え合う言語活動を取り入れていく。そして限られた資源を守るために自分たちができることを考えるようにさせる。その後、これまでの学習を振り返り、水について調べてきたことをもとに、自分の考えを発表し、話し合う。かけがえのない水を大事に使うことの大切さを全校生徒に訴えるために、自分の思いや考えを標語にまとめて発信する。出来事を他人事ではなく自分事に感じ、より主体的な学習ができると考える。

4. 研究テーマとの関わり ～思考を広げ、深める「かかわり」のしかけの工夫(2年次)～

(1) かかわりの目的や、思考の視点の明確化

命と暮らしを支える水について理解を深め、自分の生活と関連させて効果的な課題解決法を見つける。

(2) 学びをつなぎ、高める指導の工夫(発問、指示、問い返し、学習モデルや条件の提示、スキル)

全体での交流で情報量を増やし、視点をかえたり分類したりして効果的で自分に合う方法を考え

課題解決する。

(3) 思考を深め、可視化する、効果的な思考ツールや ICT の活用

全体の交流で、意見を場所・節水量の座標軸に分類し、さらに思考を深める。

(4) 多様なかかわりをつくる学習形態の工夫（個別・ペア・グループ・全体）

自分で考えたことをグループで表現し、交流することでさらに新視点で考え思考を広げる。全体で意見を交流しさらに効果的な節水方法について思考を深める。

5. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
飲料水、電気、ガスを供給する事業は、安全で安定的に供給できるように進められていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解している。(ア) 見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、まとめている。(ウ)	供給の仕組みや経路、県内外の人々の協力などに着目して、飲料水、電気、ガスの供給のための事業の様子を捉え、それらの事業が果たす役割を考え、表現している。(ア)	飲料水の確保に関わる対策や事業に関心をもち、意欲的に調べ、考えながら追究するとともに、自分も地域社会の一員として、地域の人々の願いを実現していくためにともに努力し、協力しようとしている。

6. 指導と評価の計画

	時間	学習活動【学習内容】	評価規準（評価方法）
第一次	1	○学習課題を知る。 ○学校での水の使用について、蛇口の数や使用量を調べて話し合う。	態 わたしたちの生活に欠かせない水に関心をもち、意欲的に調べようとしている。 (発言)
	2	○水の使用量を調べ、学習問題を考え、予想をし、学習計画を立てる。	知技 水を使う量は、人口や生活のしかたによって変わることを資料から読み取ったり、学校の給水設備を見学して分かったことから問題意識をもったりしている。 (発言・ワークシート)

第二 次	3	○水はどのようにして送られてくるのか調べる。	態 飲料水がわたしたちのもとに送られてくる仕組みについて意欲的に調べ、浄水場の仕組みに関心をもっている。(発言)
	4	○水道水をつくる様子を調べ、分かったことをまとめる。	知技 浄水場を調べ、飲料水の確保が計画的、協力的に進められている仕組みを見つけている。(ワークシート)
	5	○安全・安心な水をつくるための工夫や努力を調べ、分かったことをまとめる。	思判表 浄水場で働く人々の仕事や工夫や努力と、安全な飲料水の確保とが関連していることを考え、適切に表現している。(発言・ワークシート)
	6	○水源の様子について調べて話し合い、考える。	思判表 安全で安心な飲料水の確保をするための浄水場で働く人々の工夫や努力について考え、適切に表現している。(発言・ワークシート)
第三 次	7	○安全な水を使えるとはどのようなことなのかを調べる。	知理 水を守るためには森林環境の保全が重要であることを理解している。(発言・ワークシート)
	8 本 時	○限られた水を大切に使うために自分たちにできることを考え、話し合う。	思判表 飲料水をつくるために必要な資源には限りがあることから、水の無駄な使い方を見直し、有効に使うことが大切であることをわたしたちのくらしと関連付けて考え、適切に表現している。(発言・ワークシート)
	9	○これまで学習してきたことを振り返り、分かったことをまとめる。標語を作成する。	

7. 本時の目標

○限られた水を大切に使うために、水の無駄な使い方を見直し、水を有効に使うことの大切さを考えることができる。(主体的に学習に取り組む態度)

8. 本時の展開 (8 / 9)

過程	子どもの意識の連続性	学習活動	教師のはたらきかけ (評価規準・方法)
導入 10 分	<ul style="list-style-type: none"> ・人が利用できる水は0.01%しかないよ。 ・地球には水があるけどほとんど海水で、川や湖の水は少ないね。 でも、世界の水使用量は増えてるよ。 ・この限られた水を世界の人と分け合うと一人当たりどのくらい使えるのかな。 ・資源には限りがあるんだね。 ・水は大切に使わないといけな 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料から「地球上で人が利用できる水の量」「世界の水使用量の変化」を読み取る。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 2つの資料から、これから先も安心して生活していけるか考えよう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・二つの資料を見比べて、気づいたことから課題を見つける。 <ul style="list-style-type: none"> ・本時のめあてを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習への意欲を高めるために、今と水が自由に使えなかった時と比べ、めあてを確認する。 <p>※積極的に授業に臨み、進んで学習課題に取り組もうとしている。</p> <p>【関心・意欲・態度】 (発言)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、世界が直面する問題点を考え、水は限りある資源だということに気づかせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> めあて 水を大切に使うために、どのようにふうや取り組みができるか考えよう。 </div>			
		<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 生活の中で、どこでどんなふう</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 節水の工夫ができるか考えよう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活を振り返って、水を使う場面を思い出し、節水の工夫を考えてワークシートに書き込む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ごみしよりと活用」で学習したことや家庭で取り組んでいることなどを想起させ、自分にできそうなことを具体的に考えさせる。

<p>展 開</p> <p>30 分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・手を洗う時にこまめに水道を止めて水を出しっぱなしにしない。 ・油よごれの食器は、洗う前にふきとる。 ・家では、お風呂で使った水を洗濯する時に使っているよ。 ・米のとぎ汁を庭の水やりに使う。 <p>・節水はたくさん意見がでたけど、再利用については少ないから、班で考えてみようよ。</p> <p>・おふろの場面では他に方法はないかな。</p> <p>・石鹸で手を洗う時に水をだしっぱなしにしない。</p> <p>・掃除の時間でぞうきを洗う時にも工夫はできないかな。</p> <p>・たくさんの意見が出たけど、自分ならこれがすぐに取り組みそう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・班に分かれて考えた工夫を紹介し、水を大切に使う工夫について意見を共有する。 ・全体で交流する。 ・教科書 p 52 から水資源の 3 R を学習する。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>3 R や水を使う場所からみて、さらに節水の工夫ができそうなどころはないか考えよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・全体で交流した意見から、視点を増やしてさらに水を大切に使う工夫について班で考える。 ・班で考えた意見を全体で紹介し合い、毎日できることと節約できる水の量にグループに分ける。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>自分が取り組んでいきたいことを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効果的なこと ・取り組みやすいこと </div> <ul style="list-style-type: none"> ・自分で取り組む節水の方法や学校で協力してもらうことなどを決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で考えたことをもとにさらに意見を出しえるよう班で話し合う。 <p>※話し合いの場を通し、自身や他の児童の意見をまとめ、整理している。</p> <p>【技能】 (ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水を大切に使う工夫が「ごみの処理と活用」で学習した 3 R に関連することを紹介する。 <p>※話し合いを通して、節水の工夫を自分たちの生活と関連付けて考え、適切に表現している。</p> <p>【思考・判断・表現】 (発表・ワークシート)</p>
<p>ま と め</p> <p>5 分</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに毎日使う水について、心がけなければいけないことはどんなことか考え、自分が取り組みたいことの宣言を作成し、発表する。 ・学習のまとめを行い、次時の活動の予告をする。 	<p>※これからの水利用について地域社会の一員として資源の節約に協力しようとしている。</p> <p>【関心・意欲・態度】 (発表・ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次時に標語作りの活動をすること伝え、見通しをもたせる。

9. 板書計画

